

-袋井の歴史資料と古文書展-

袋井 江戸時代の風景

〔第2期展示解説〕

2012年

袋井市歴史文化館



「東海道 袋井・国綱」
(縦 35.0cm×横 25.4cm)

三代広重の作品である。東海道の松並木を中心に、人力車や馬上の旅人などの図柄で構成されている。道標には袋井駅のほか可睡斎三尺坊の文字がみえる。

大きさは縦大判で、明治8年(1875)に刷られたものである。版元は山崎屋清七である。

幕末に数多くの役者絵を残した国綱の作品である。

鉄砲隊を中心とした大名行列を描いており、幕末の動乱期に相応しい構図である。

大きさは縦大判で、幕末に刷られたものである。版元は越平である。



「東海名所改正道中記 袋井・三代歌川広重」
(縦 36cm×横 24.5cm)



「行書版東海道 袋井・初代歌川広重」
(縦 22.3cm×横 34.5cm)

東海道五十三次ものの代表的な作者である初代広重の作品である。宿駅名などの文字が行書で書かれている。松並木を中央に配置し、周囲に田園風景の広がる大胆な構図である。大きさは横大判で、嘉永元年(1848)頃に刷られ、版元は山田屋庄次郎である。



「東海道五十三次内 袋井・歌川芳員」
(縦 11.1cm×横 17.3cm)

武者絵や花鳥画を得意とし芳員の作品である。

袋井宿の定番である田園風景を中心に、旅人と農夫が描かれている。旅人は江戸時代の旅ものの作品によくでてくる弥次さん喜多さんのいずれかであろうか。大きさは横中判で、嘉永6年(1853)に刷られた作品と思われる。

初代歌川広重が手がけた縦絵風景画の一つで、中央に並木を配置し、袋井宿の定番の図柄である背後に凧をあげている人物が配されている構図となっている。背後の凧は四角凧と丸凧があり、現在の袋井凧の一つとして丸凧が復元されている。嘉永2～5年(1849～52)頃に刷られた縦中判の作品で、版元は村田屋市兵衛である。

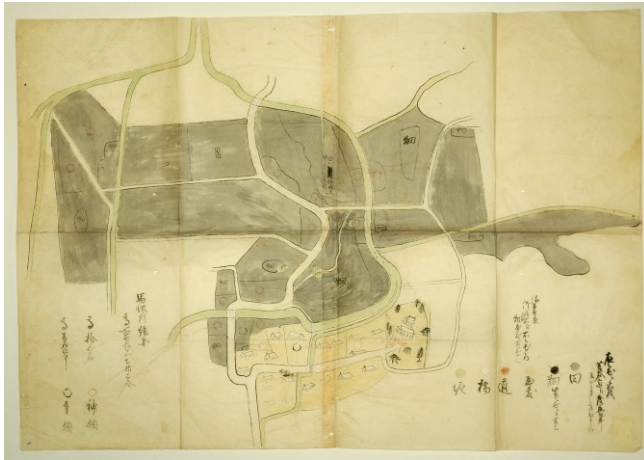


人物東海道 袋井・初代歌川広重」
24.8cm×横 18.4cm)



「書画五拾三駅 袋井・河鍋暁斎」
(縦 35.8cm×横 24.1cm)

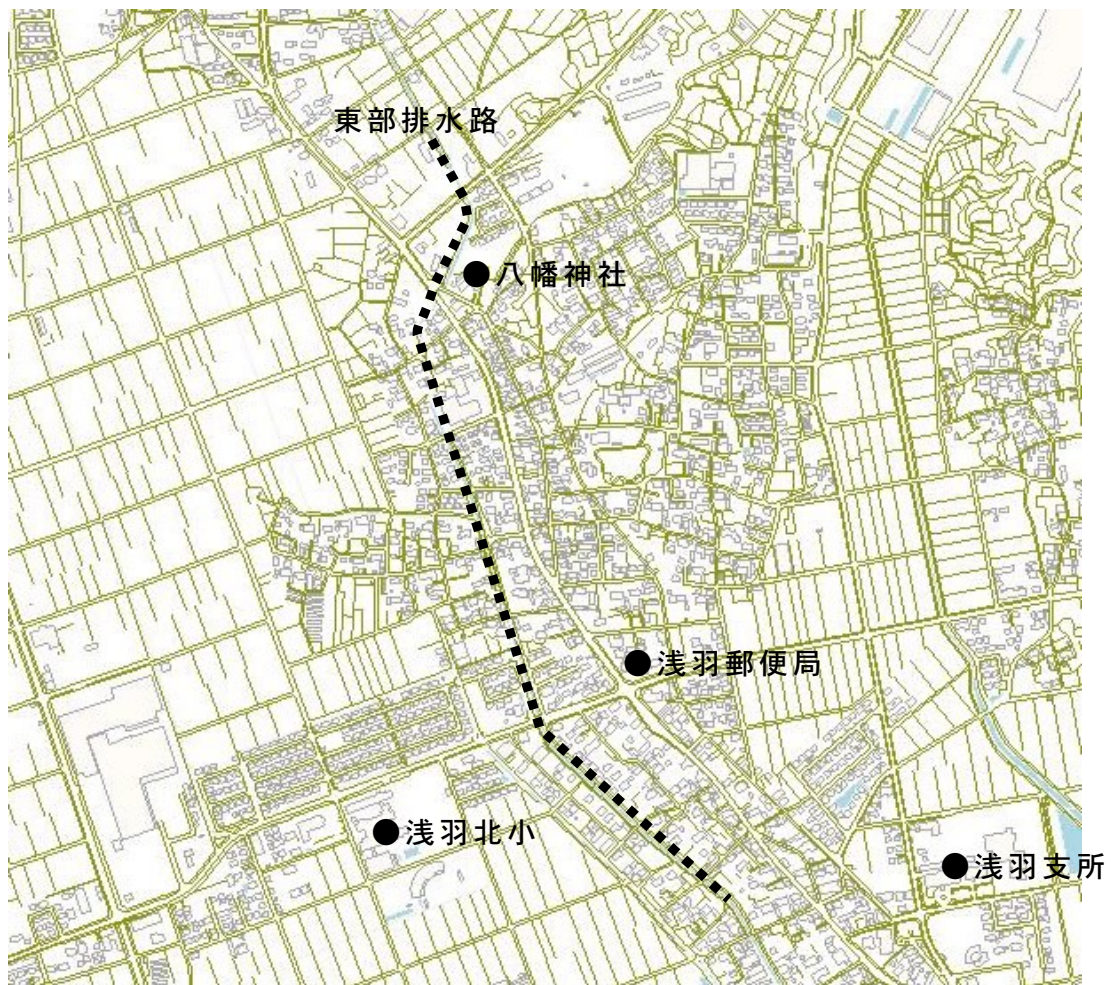
河鍋暁斎の作で、右横に「弥次喜太酒慾ノ戯」と書かれており、当時流行していた弥次喜多道中記(東海道中膝栗毛)の一場面を構図としたものであろう。上半分に初代広重の人物東海道を、丸窓の中に収めている。縦大判の大きさで、幕末～明治時代に刷られたものと考えられる。

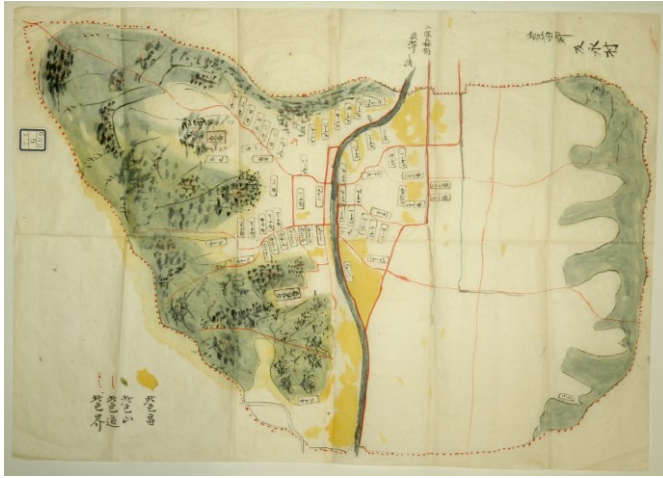


ばんばむらえず
「馬場村絵図」
 (縦 42.5cm×横 60.5cm)

けいおう
 慶応4年(1868)に作成された浅羽の馬場村(現在浅羽地内)の彩色された絵図である。地図内には、慶応年間に馬場村を支配していた、旗本の菅谷主税氏に提出された絵図であることの記載がある。なお、菅谷氏の陣屋は西島村(磐田市)に置かれていた。

絵図からは村の東はずれに、現在も所在している八幡宮の存在が確認できる。村の中央を蛇行するように流れる緑色に着色された小河川は、現在の東部排水路であろうか。

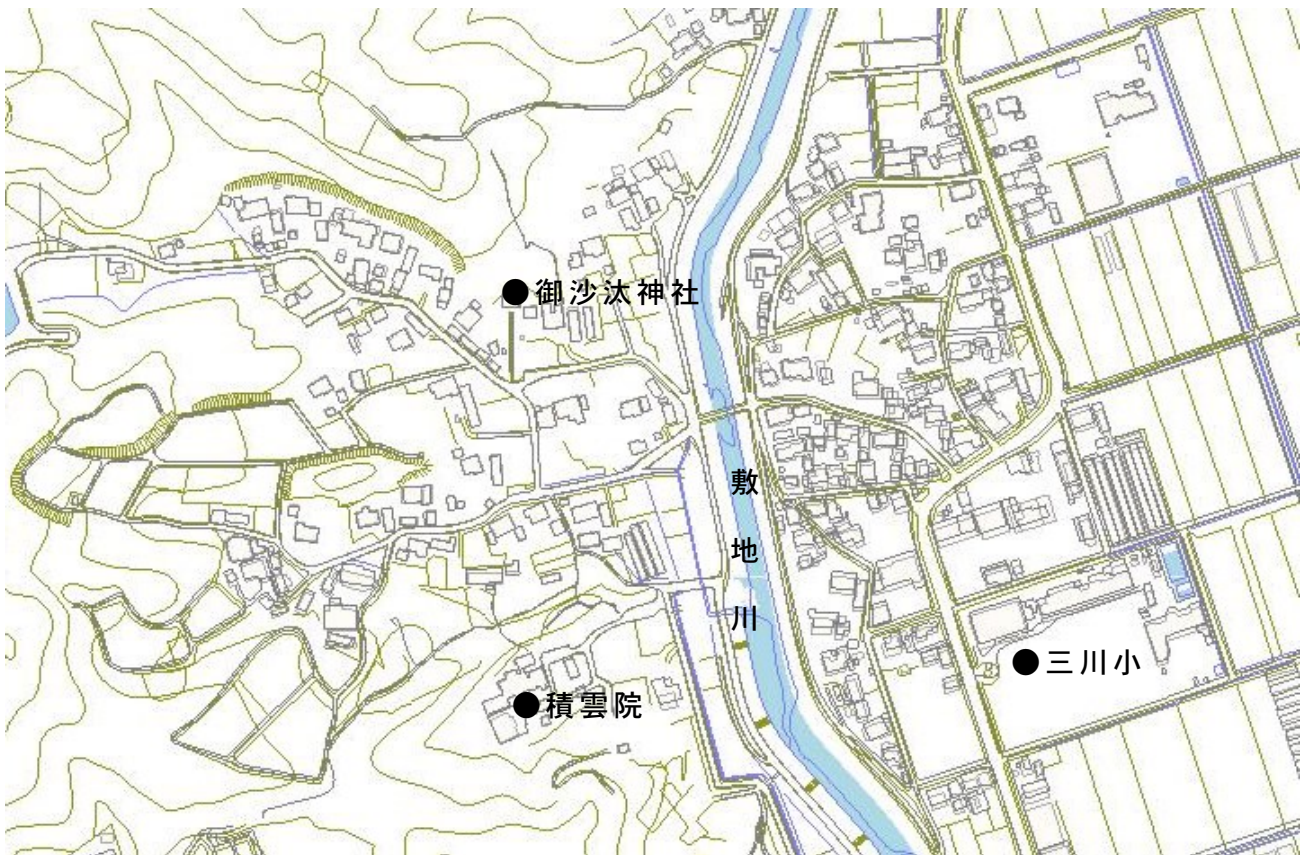


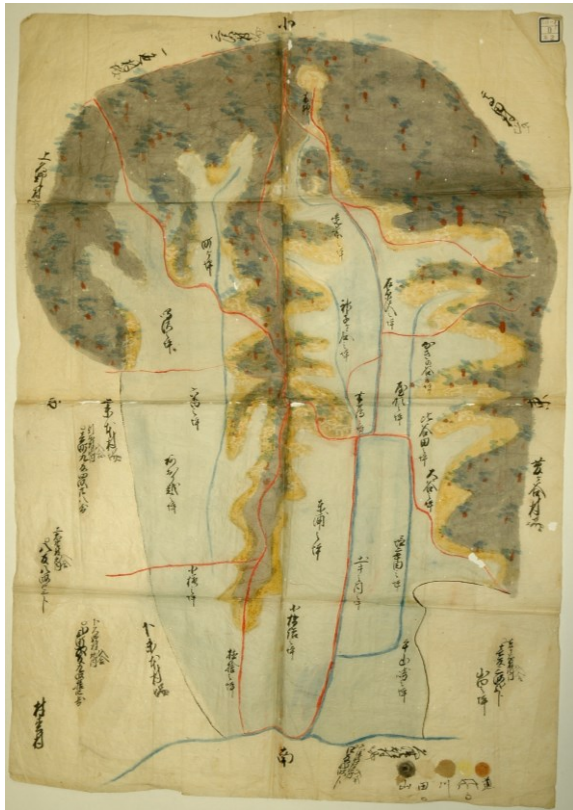


とよだぐんともながむらゑず
「豊田郡友永村絵図」
(縦 55.0cm×横 39.2cm)

本絵図は、友永村（現在三川地内）の番地が記載された、彩色の絵図である。年号の記載はないが、積雲院の建物の上に番地（百廿六番）を書き込んでいることから、明治時代初期の絵図とも思われる。

絵図からは、積雲院や御沙汰神社などの位置が確認できるほか、敷地川もほとんど現在の流路と変わらないことが分かる。村内の道も朱書きで記入されており、現在の道とほとんど一致していることが分かる。なお、百八番の大型の建物については、現在竹林の広い平場となっているが、性格は不明である。

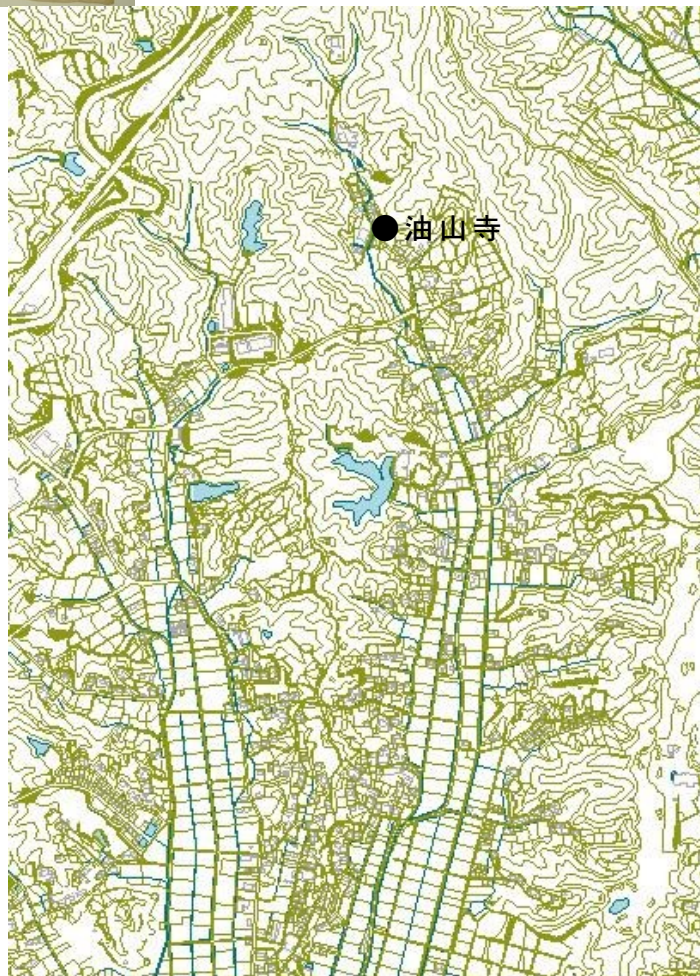




本絵図は、村松村の^{いりあいち}入会地（村の共同管理地）の広さが描かれた、^{さいしき}彩色の絵図である。年号の記載はないが、江戸時代に製作されたものであろう。

絵図には、村松村内の入会地である丘陵地や谷地形、山道や間道などが詳細に描かれている。「鳴沢之坪」などの^{なるさわのつぼ}小字が付けられた^{つぼめい}坪名が記入されており、村松地区の小字を知るうえで参考となる絵図である。北端山中に書かれている「薬師」は、^{やくし}油山寺の^{ゆさんじ}ことであらう。

^{いりあいちえず}
「村松村入会地絵図」
(縦 74.5cm×横 52.0cm)





やまなぐんたろうすけむらえず
 「山名郡太郎助村絵図」
 (縦 75.5cm × 横 105.0cm)

あさば たろすけむら
 浅羽の太郎助村の彩色された絵図である。作成された時期の記載はないが、幕末～明治時代初期に描かれたものと思われる。

絵図からは、村の氏神様である神明神社が村の北側に、村の中には新福寺の存在が分かる。新福寺は現在廃寺となってはいるが、太郎助公会堂の位置にあったと思われ、付近に墓石が残されている。村の南側には前川が流れていることが分かる。村の中を流れている小河川は、現在も太郎助排水路として残っている。

よこすかはん
 なお、幕末の太郎助村は、横須賀藩の西尾氏により支配されていた。





明治5年に作成された、
深見村（現在 今井地区）の
彩色された絵図である。

絵図からは、中央に太田川
が流れており、現在の深見
橋よりもやや上流に橋が懸
けられている。

村の中には氏神様を祀る
深見神社があり、その北側
の赤い屋根の建物、長泉寺
だと思われる。村の北外れ
の川沿いに赤く描かれた社
のような建物については、
現在は確認できない。

とよだぐんふかみむらえず
「豊田郡深見村絵図」
(縦 75.0cm×横 70.5cm)



—袋井の歴史資料と古文書展—

袋井 江戸時代の風景

〔第2期・展示解説〕

平成 24 年 4 月 2 日

編 集 袋井市歴史文化館